

令和6年台風第10号のふりかえり

中部地方整備局
木曽川上流河川事務所

令和6年台風10号による 木曽川水系の出水状況(第2報)

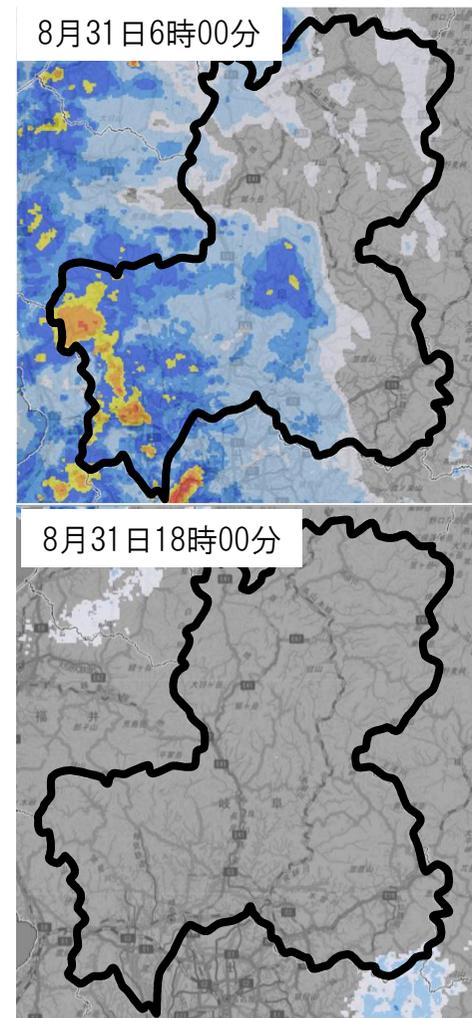
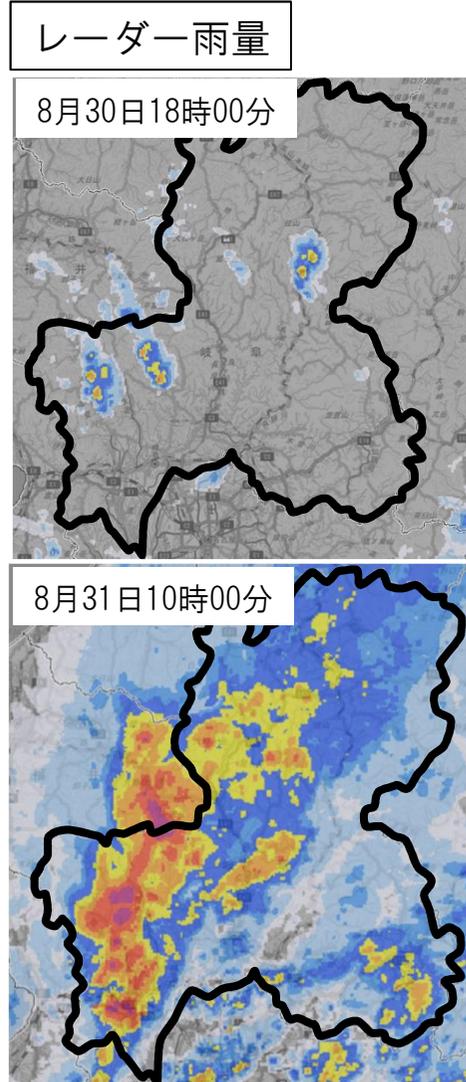
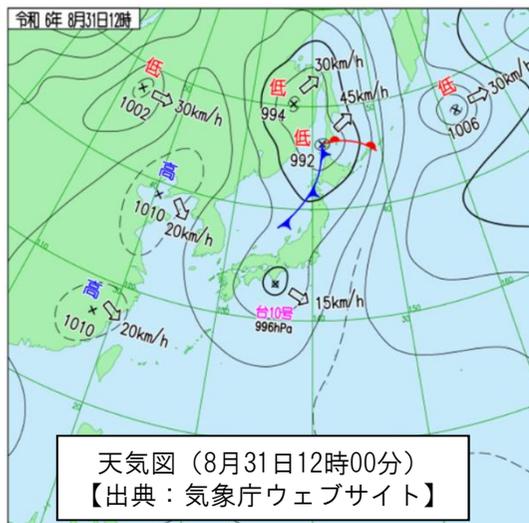


令和6年12月16日
国土交通省中部地方整備局

木曽川上流河川事務所、木曽川水系ダム統合管理事務所

気象状況

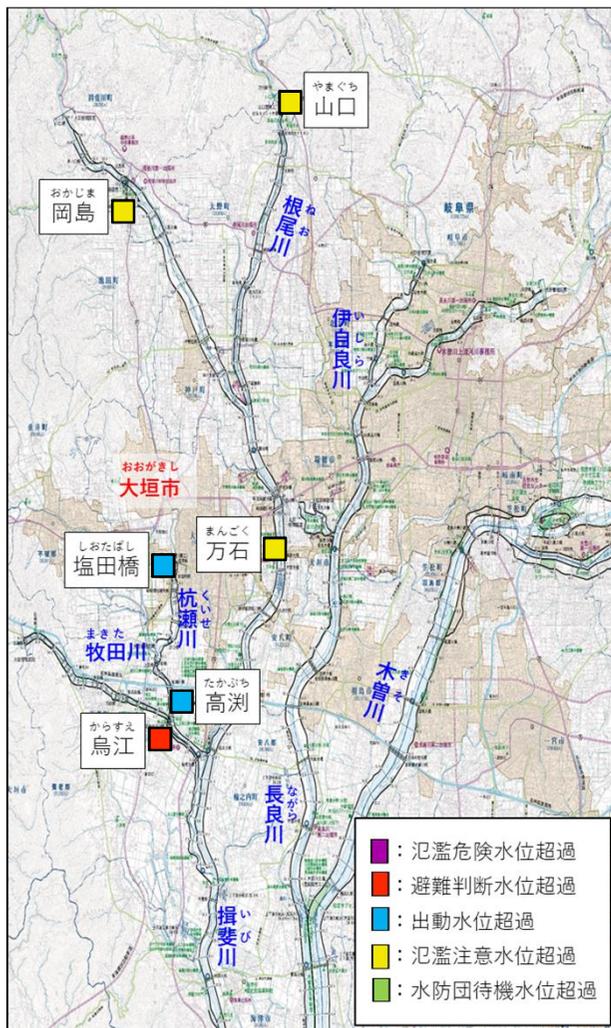
○ 台風本体や台風周辺の雨雲の影響で、西日本から東日本にかけての太平洋側を中心に、東海地方、九州地方、四国地方などにおいて記録的な大雨となっています。木曾川水系においても、8月29日からの降り始めの総雨量（8月31日18時まで）が赤坂観測所（岐阜県大垣市）で363mm、美東観測所（岐阜県揖斐郡揖斐川町）で326mm、関ヶ原観測所（岐阜県不破郡関ヶ原町）で272mmを観測するなど、揖斐川流域において大雨となりました。



揖斐川・根尾川・牧田川・杭瀬川の状況

- 木曾川上流河川事務所管内の養老町（烏江観測所）では避難判断水位を超過し、大垣市（塩田橋観測所、高淵観測所）の2観測所で出動水位を超過しました。
- また、国管理区間における氾濫被害はありませんでした。

○水位状況



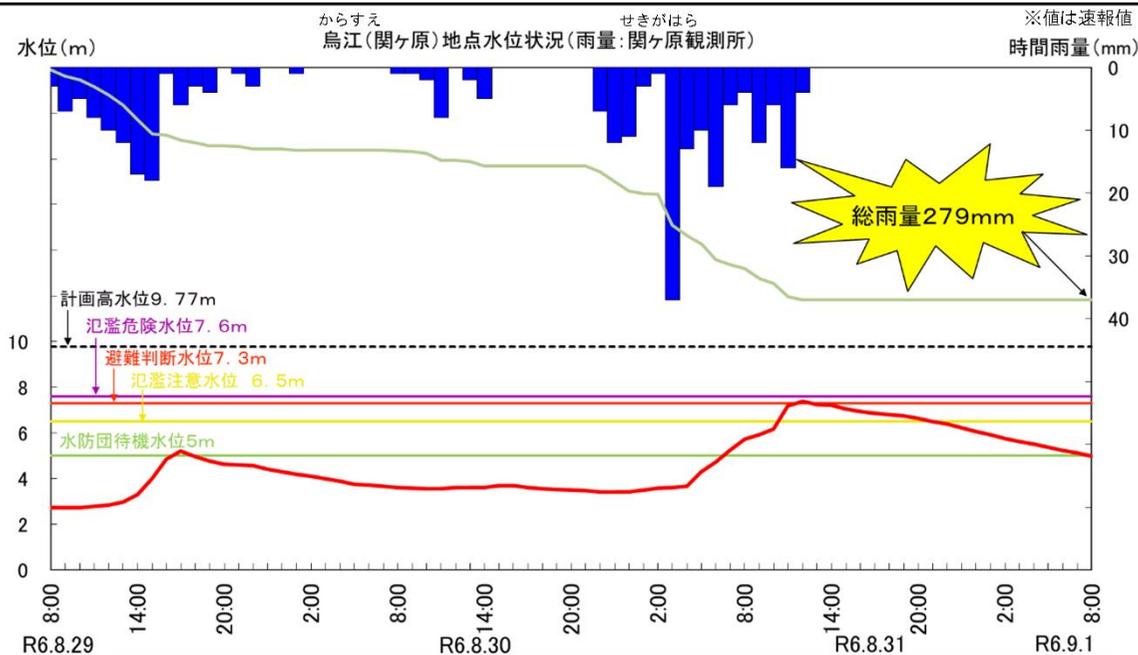
○氾濫注意水位の超過を観測した観測所 (単位:m)

河川名	観測所名	今回※ 最高水位	水防団 待機水位	氾濫 注意水位	出動水位	避難 判断水位	氾濫 危険水位	計画 高水位
揖斐川	おかじま 岡島	8/31 12:00 1.45	0.50	1.30 1.45	2.40	3.40	4.10	5.33
	まんごく 万石	8/31 15:10 4.46	2.50	4.00 4.46	5.00	5.80	6.40	7.09
根尾川	やまぐち 山口	8/31 13:20 3.00	1.40	2.20 3.00	3.50	3.50	3.90	-
	からすえ 烏江	8/31 11:40 7.48	5.00	6.50	7.30	7.30 7.48	7.60	9.77
杭瀬川	しおたばし 塩田橋	8/31 17:10 6.71	4.30	5.10	5.40 6.71	7.70	7.90	8.05
	たかぶち 高淵	8/31 17:20 7.24	4.50	6.50	7.00 7.24	8.60	8.90	9.11

※最高水位は速報値（10分単位） 水位の値は量水標の読み値

【牧田川】岐阜県養老町(烏江観測所)で、避難判断水位を超過

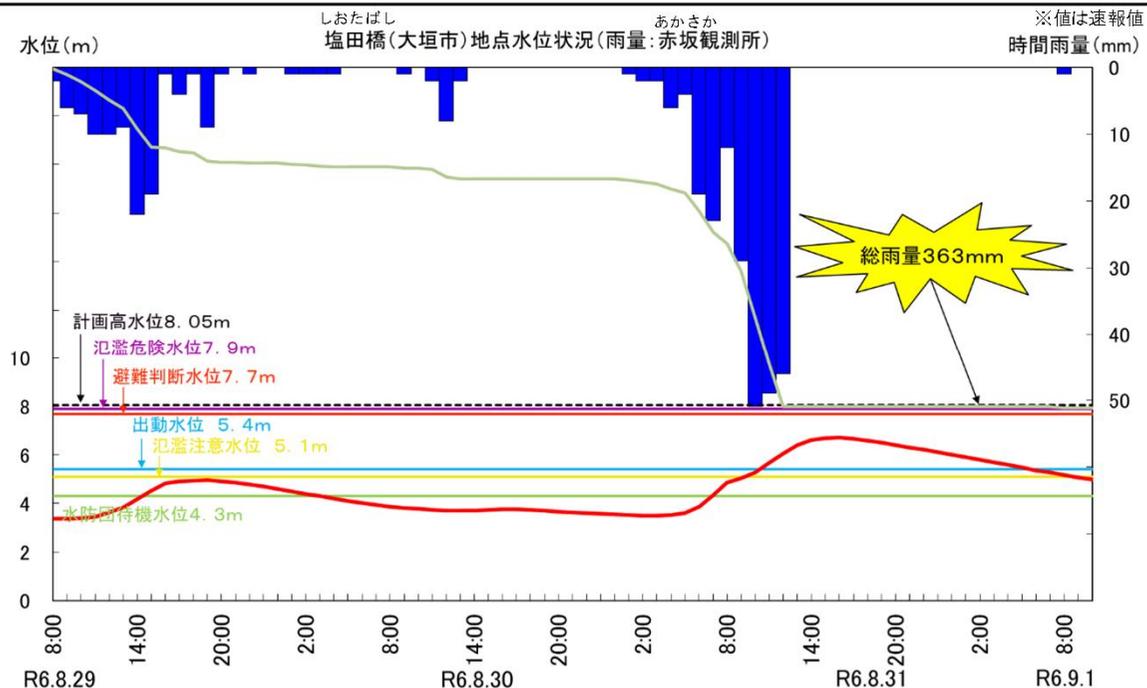
○ 牧田川の烏江観測所においては、避難判断水位を超える7.48mの水位を観測しました。



牧田川の出水状況(8月31日 15時30分頃)7.2k付近

【杭瀬川】岐阜県大垣市(塩田橋観測所)で、出動水位を超過

○ 杭瀬川の塩田橋観測所においては、出動水位を超える6.71m※の水位を観測しました。

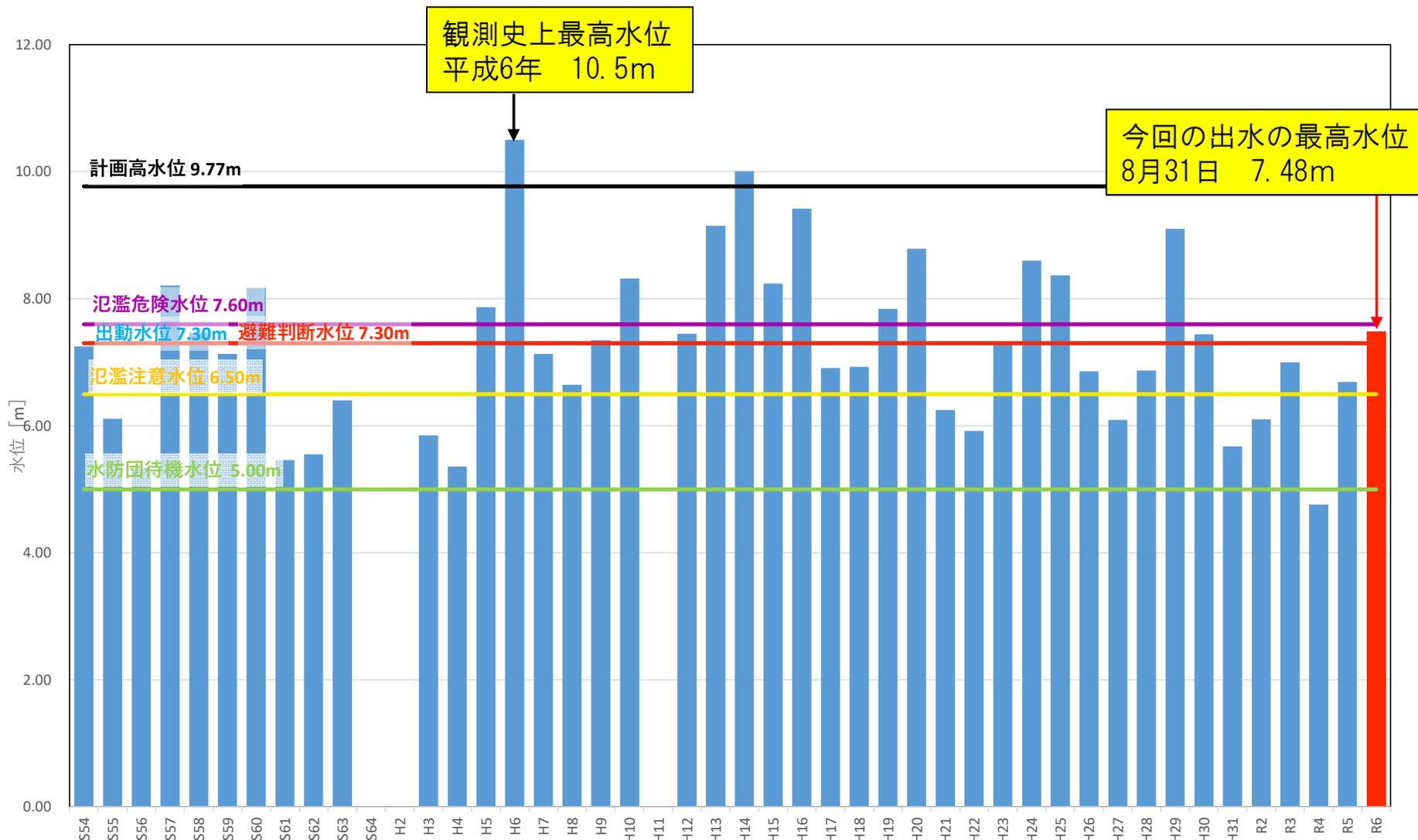


杭瀬川の出水状況(8月31日 17時00分頃)8.8k付近

【牧田川】水位の概要(烏江観測所)

○ 今回の出水は、烏江観測所において約5年ぶりに避難判断水位を超える水位(7.48m)を観測しました。

牧田川(烏江観測所)の年最高水位比較図



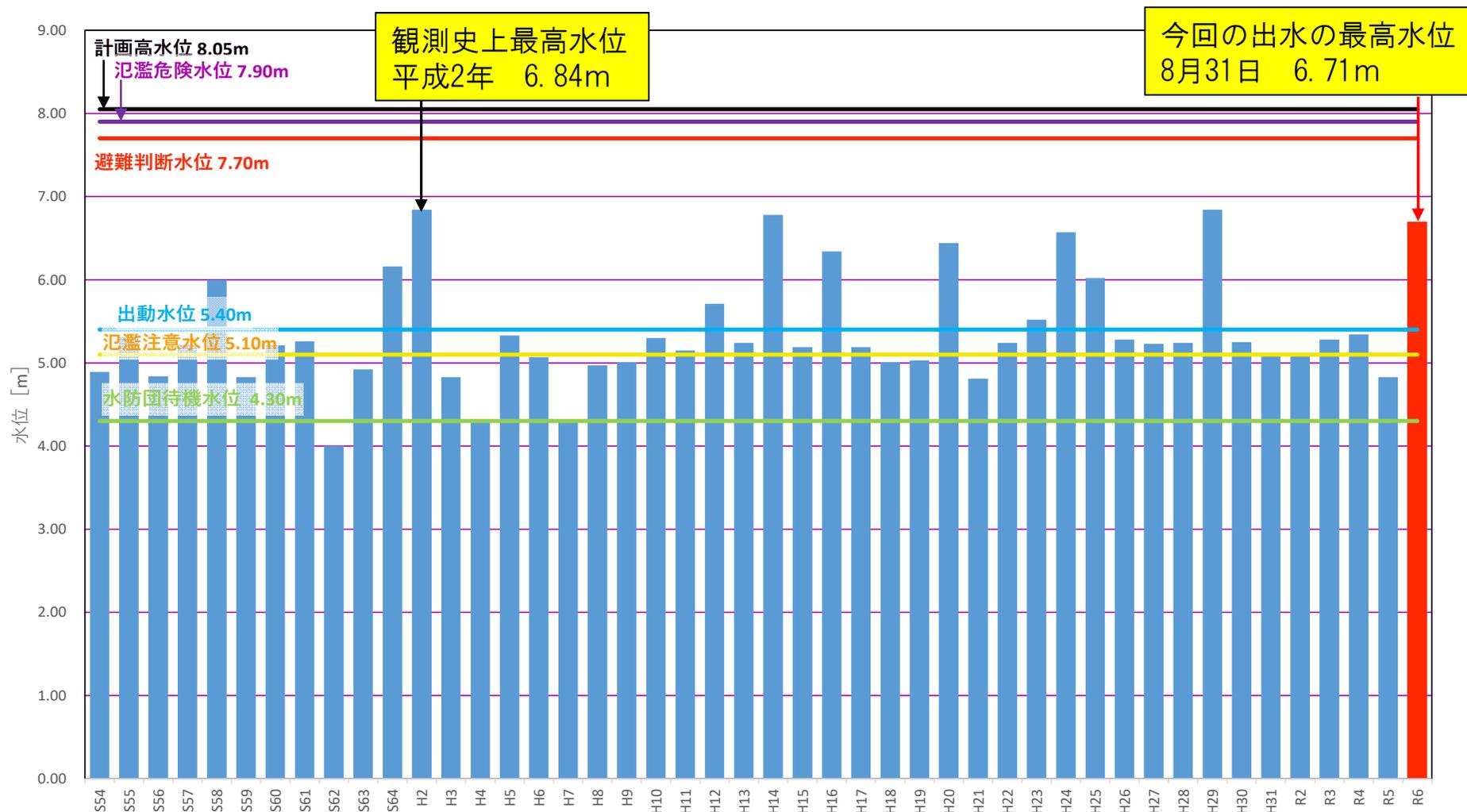
※本資料の令和6年最高水位は、今後の照査により変更となる可能性があります

※氾濫危険水位等の基準値は令和6年度時点のものになります

【杭瀬川】水位の概要(塩田橋観測所)

○ 今回の出水は、塩田橋観測所において観測史上最高水位を記録した平成2年(6.84m)と同程度の規模の水位(6.71m)を観測しました。

杭瀬川(塩田橋観測所)の年最高水位比較図



※本資料の令和6年最高水位は、今後の照査により変更となる可能性があります

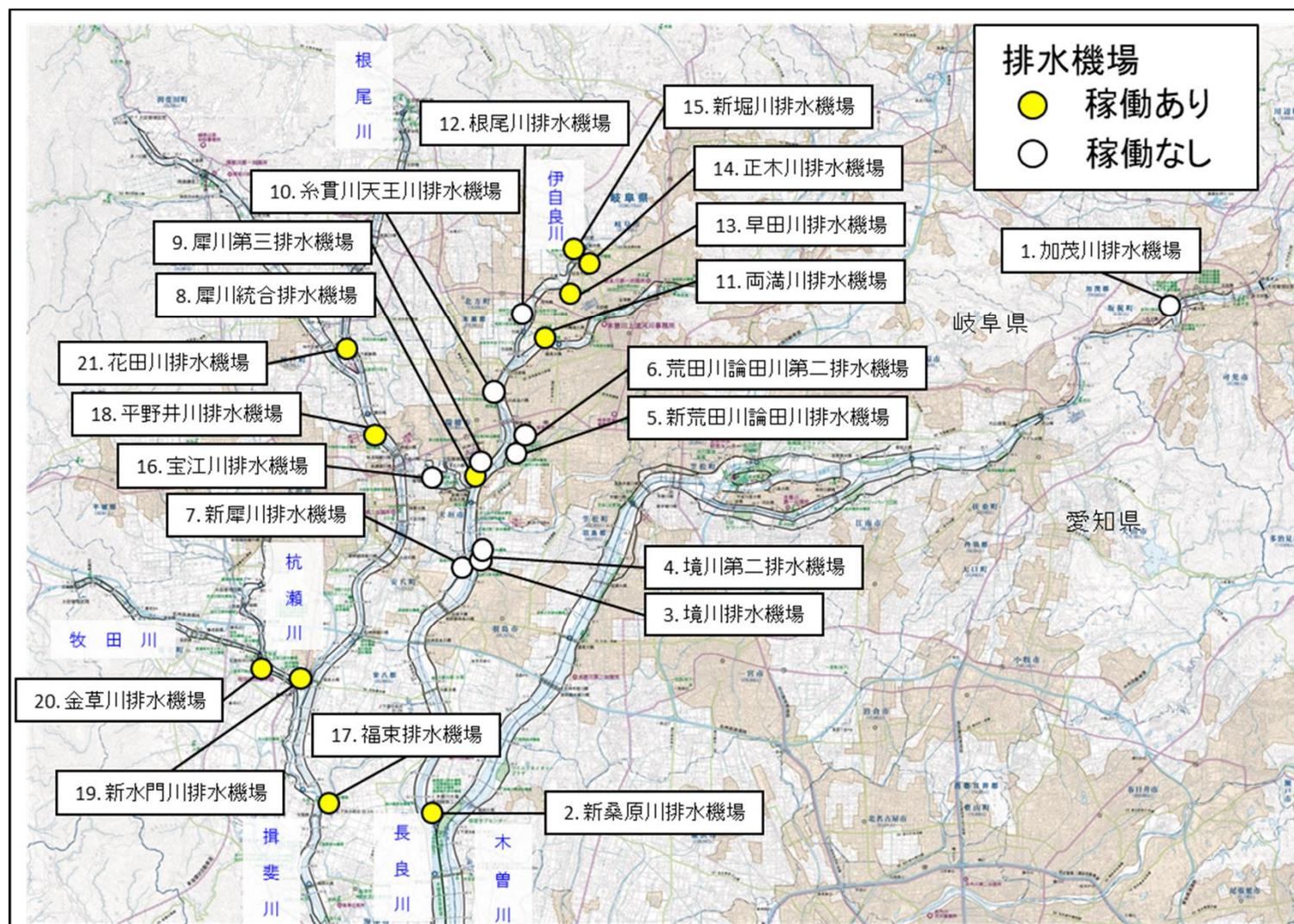
※氾濫危険水位等の基準値は令和6年度時点のものになります

排水機場の稼働状況

○ 木曾川上流河川事務所が管理する **21 排水機場のうち、半数の 11 排水機場が稼働** しました。これらの排水機場により、**バンテリンドームナゴヤ（旧ナゴヤドーム）の容量の約 5.2 倍** に相当する約 886 万³※（うち、長良川では約 58 万³※、揖斐川では約 828 万³※）の内水を排除しました。

※値は速報値

【位置図】



排水機場稼働報告(8月29日～9月2日)

9月2日 0時時点

No.	河川名	排水機場名	主なポンプの稼働時間(h:min)							総排水量 (万m ³)
			1号	2号	3号	4号	5号	6号	7号	
1	木曾川	加茂川排水機場	-	-	-	-	-			0
2	長良川	新桑原川排水機場	04:10	-						12
3	長良川	境川排水機場	-	-	-	-	-			0
4	長良川	境川第二排水機場	-	-	-	-				0
5	長良川	新荒田川論田川排水機場	-	-						0
6	長良川	荒田川論田川第二排水機場	-	-						0
7	長良川	新犀川排水機場	-	-						0
8	長良川	犀川統合排水機場	-	-	00:40	-				1
9	長良川	犀川第三排水機場	-	-	-	-	-			0
10	長良川	糸貫川天王川排水機場	-	-	-	-	-	-	-	0
11	長良川	両満川排水機場	00:40	00:40	00:40					4
12	伊自良川	根尾川排水機場	-	-						0
13	伊自良川	早田川排水機場	-	-	-	01:30				3
14	伊自良川	正木川排水機場	00:20	00:30	-					1
15	伊自良川	新堀川排水機場	-	02:00	07:20	07:20				36
16	犀川	宝江川排水機場	-	-						0
17	揖斐川	福束排水機場	59:10	68:00	-	05:20				358
18	揖斐川	平野井川排水機場	09:20							13
19	牧田川	新水門川排水機場	10:00	22:00	25:40	15:00				219
20	牧田川	金草川排水機場	46:40	27:30						236
21	根尾川	花田川排水機場	02:40	02:40						2

総排水量 約886万m³

21排水機場のうち、
半数の11排水機場が稼働



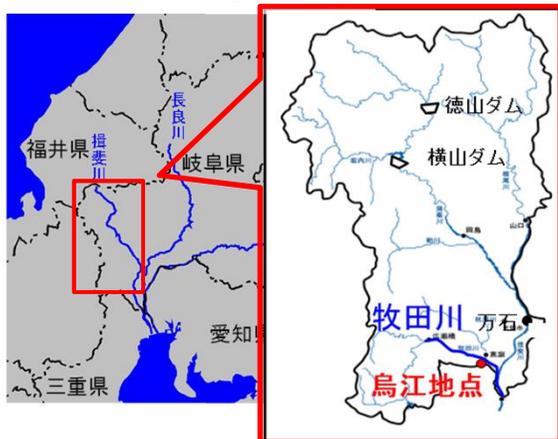
※バンテリンドームナゴヤの容積は170万m³

※総排水量については、四捨五入のため、内訳の合計が総数に合わない場合があります。

牧田川の河道拡幅による効果 ※速報値

- 揖斐川支川^{いびがわ}牧田川^{まきたがわ}では、令和6年8月台風第10号に伴う大雨により、関ヶ原雨量観測所^{せきがはら}において総雨量161mm（時間最大雨量37mm）を観測、烏江水位観測所において避難判断水位（7.30m）を超過する7.48mの水位を観測しました。
- 平成2年9月出水による被害を受け、これまでに特定構造物改築事業（近畿日本鉄道（現：養老鉄道）牧田川橋梁）【平成2年～平成13年度】等による河道拡幅工事を実施したことで、烏江地点において事業実施前に比べ約0.9mの水位を低下させ氾濫危険水位の超過を回避しました。

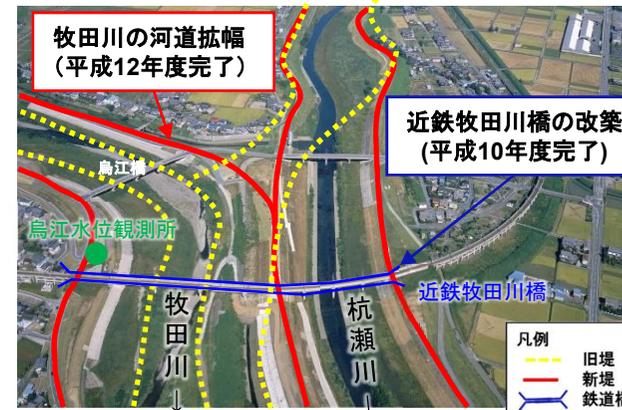
【位置図】



【事業前(平成2年度)】



【現在】



【平成2年9月出水の状況】



【事業の効果】



（緑線は河道拡幅前の河道断面：H2時点）

令和6年台風第10号における揖斐川本川の水位低下効果 －徳山ダム・横山ダムの効果－

別紙

- ・ 台風第10号による大雨に伴い、徳山ダム・横山ダムでは連携した防災操作を実施しており、徳山ダムでは最大流入量約488m³/sすべてを調節（放流量0m³/s）、横山ダムでは最大流入量約445m³/sを約168m³/s調節し、2ダムで約1,140万m³を貯留しました。（バンテリンドームナゴヤ約6.7杯分）
- ・ 2ダムがない場合と比較して、揖斐川の揖斐川町岡島地点（河口から57.3km）では約1.1mの水位低下効果、大垣市万石地点（河口から40.6km）では約0.5mの水位低下効果があったものと推定されます。これにより岡島地点で水防団が河川の巡視及び状況に応じて水防対策を行う水位である出動水位の超過を回避しました。

※バンテリンドームナゴヤ1杯：約170万m³

【位置図】



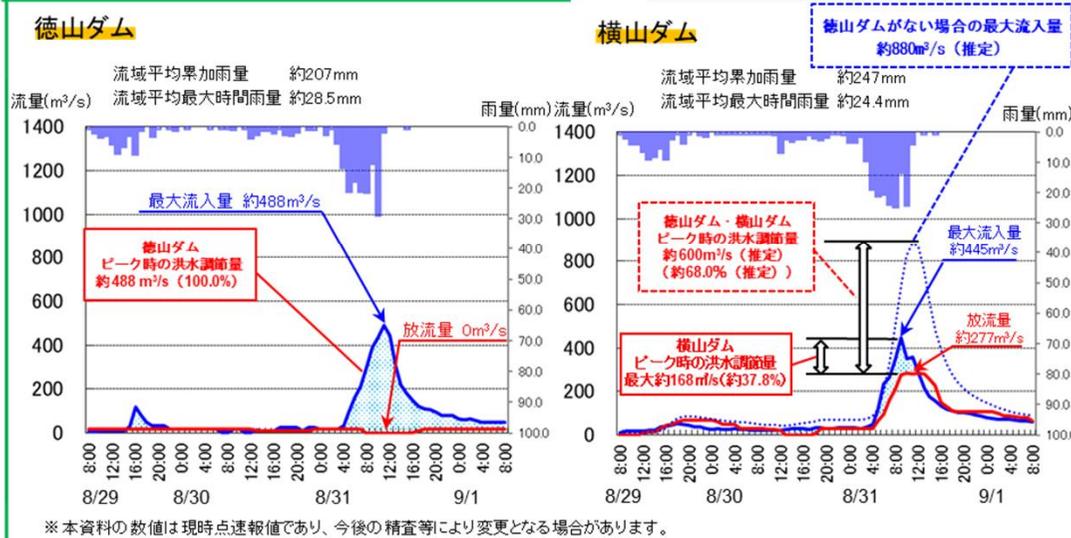
【万石地点（河口から40.6km）】



【水位低下量】

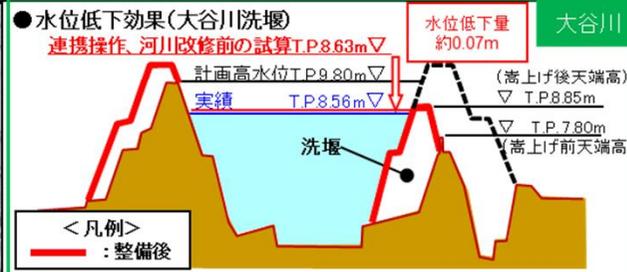
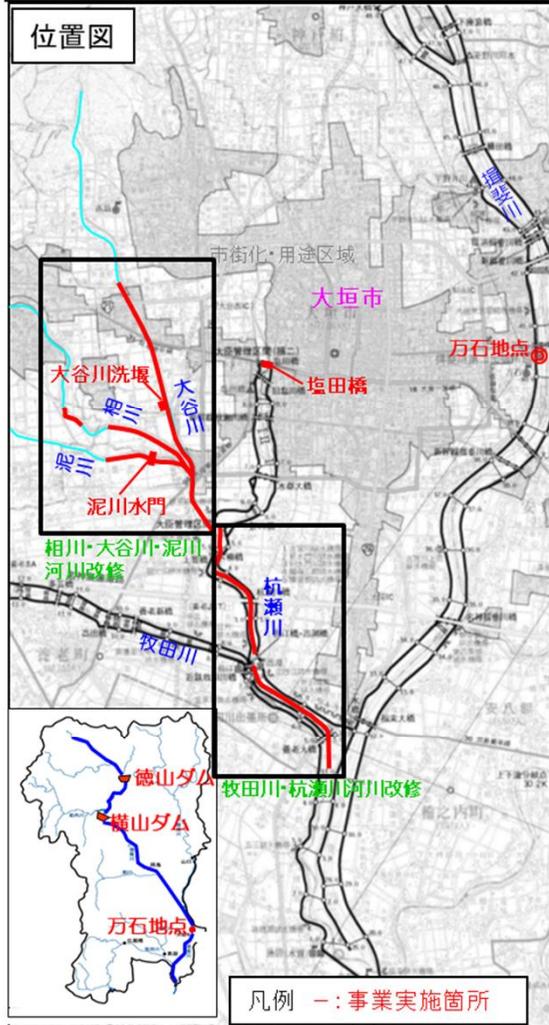


【徳山ダム・横山ダム連携による洪水調節】



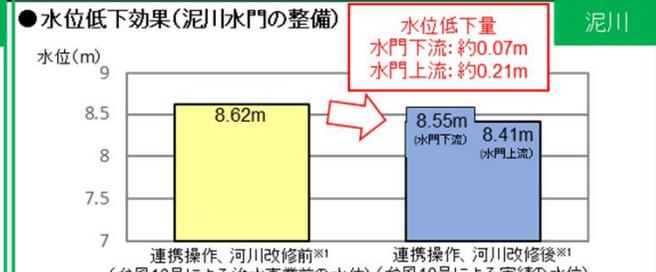
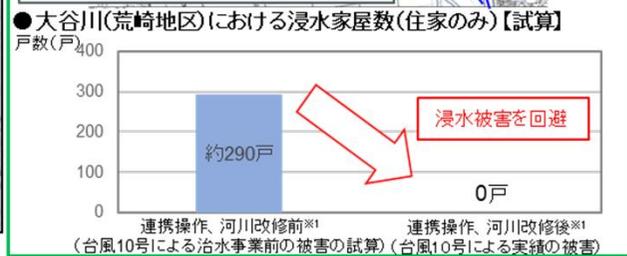
令和6年台風第10号における揖斐川支川大谷川・泥川の治水効果 －徳山ダム・横山ダムの連携した防災操作、河川改修－

・令和6年台風第10号では、徳山ダム・横山ダムの連携した防災操作の実施により、支川杭瀬川の塩田橋で約0.08mの水位低下、支川大谷川の大谷川洗堰で約0.07mの水位低下、支川泥川の泥川水門下流で約0.07mの水位低下効果があり、さらに、泥川水門の整備等の河川改修と併せ泥川水門上流では約0.21mの水位低下効果があったものと試算しました。
 ・仮に、ダムの防災操作の実施や泥川水門の整備、大谷川洗堰の高上げができていなかった場合は、泥川、大谷川においてさらに長い時間浸水しており、かつ大谷川流域では約290戸の被害が生じていたと推定されます。



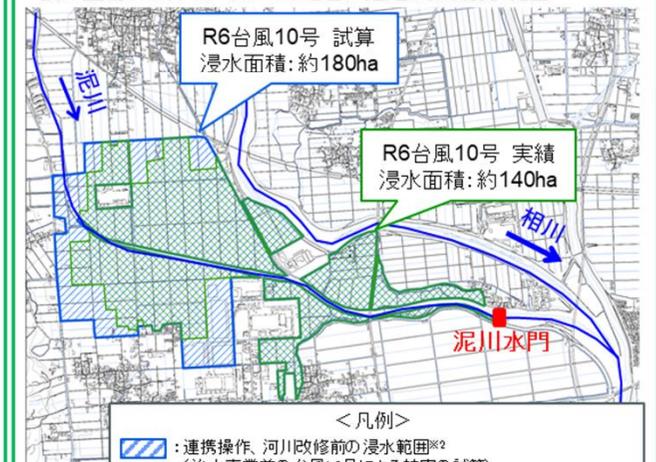
● 大谷川(荒崎地区)における外水氾濫による浸水実績と仮に整備がされていなかった場合に想定される浸水範囲

R6台風10号 試算 浸水面積: 約190ha
 R6台風10号 実績 浸水面積: 0ha



● 泥川における外水氾濫による浸水実績と仮に整備がされていなかった場合に想定される浸水範囲

R6台風10号 試算 浸水面積: 約180ha
 R6台風10号 実績 浸水面積: 約140ha

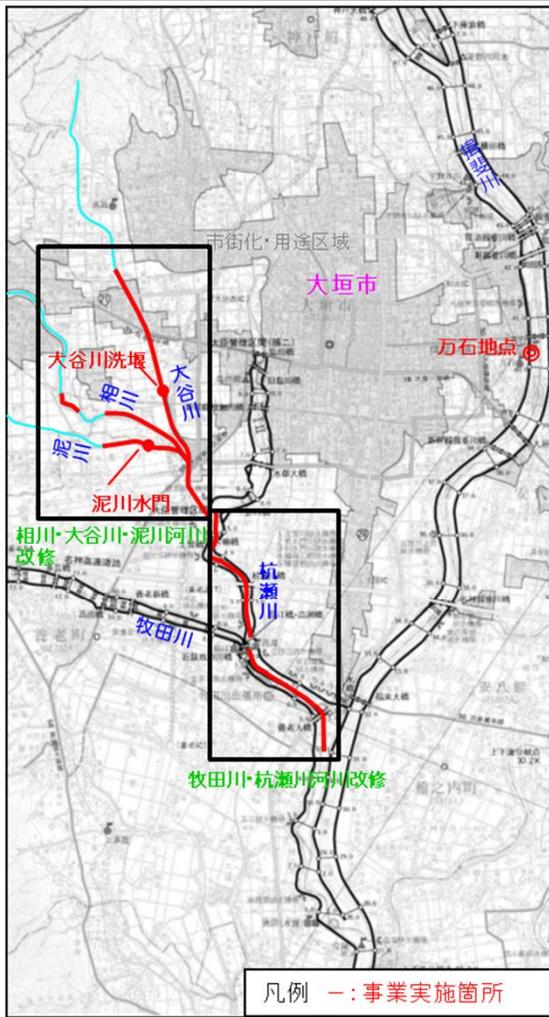


揖斐川支川における主な治水事業

参考

揖斐川支川の相川、大谷川、泥川等は、勾配が非常に緩く、合流先の揖斐川本川や杭瀬川の水位に大きく影響を受けます。そのため、これらの支川の洪水を安全に流下させるために、次の河川事業を行ってきました。

- ・ 揖斐川本川の水位低下・・・徳山ダム・横山ダムの治水機能の向上
- ・ 杭瀬川の水位低下・・・牧田川・杭瀬川の大幅な拡幅
- ・ 相川・大谷川・泥川の改修・・・築堤、泥川水門の整備、大谷川洗堰嵩上げ



水防活動等の状況

- 大垣市久瀬川町・静里町（杭瀬川）において、塩田橋陸閘を閉鎖し、浸水被害に備えました。
- また、大垣市や養老町にて消防団による河川巡視を実施し、堤防等に異常がないか確認しました。



塩田橋陸閘の閉鎖状況

木曽川上流河川事務所による支援

○ 養老町および大垣市の2箇所に排水ポンプ車等を派遣し、排水作業の支援を行いました。

【位置図】



【排水状況】

① 養老町



② 大垣市



木曽川上流河川事務所による支援(リエゾン派遣)

○ リエゾン（情報連絡員）を大垣市および養老町に派遣し、地方公共団体との情報共有を強化するなど防災対応の支援を実施しました。

【位置図】



【活動状況】



リエゾンの活動状況（大垣市）



リエゾンの活動状況（養老町）

災害時の関係機関の活動

○ 今回の出水にあたり、建設業、測量・コンサルタント業、機械設備業等多くの機関が連携し、住民の安全・安心のため活動いただきました。

建設業、測量・コンサルタント業、機械設備業等



- 台風第10号に備え、木曽川水系内の3ダムにおいて事前放流を実施することにより、治水のための容量を確保しました。
- 14ダムにおいて、既に水位が低下していたことで事前放流の容量を確保していました。
- 下流河川の水位を下げるため、ダムに洪水の一部を貯める洪水調節を2ダムで実施しました。

■事前放流を実施したダム 3ダム

所在県	水系名	河川名	ダム名	区分
長野県	木曽川水系	木曽川	丸山ダム	治水等多目的ダム※
岐阜県	木曽川水系	坂内川	神岳ダム	利水ダム
岐阜県	木曽川水系	東谷川	打上調整池	利水ダム

※ 治水等多目的ダム:直轄・水資源機構(特定施設)・補助ダム

注)本資料の数値は速報値であり、今後の精査等により変更となる場合があります。

■既に水位が低下していたダム(次ページへ続く) 14ダム

(1/2)

所在県	水系名	河川名	ダム名	区分
長野県	木曽川水系	木曽川	味噌川ダム	治水等多目的ダム※
長野県	木曽川水系	王滝川	牧尾ダム	利水ダム
岐阜県	木曽川水系	阿多岐川	阿多岐ダム	治水等多目的ダム※
岐阜県	木曽川水系	阿木川	阿木川ダム	治水等多目的ダム※
岐阜県	木曽川水系	馬瀬川	岩屋ダム	治水等多目的ダム※
岐阜県	木曽川水系	馬瀬川	馬瀬川第2ダム	利水ダム

※ 治水等多目的ダム:直轄・水資源機構(特定施設)・補助ダム

注)本資料の数値は速報値であり、今後の精査等により変更となる場合があります。

木曽川水系におけるダムの対応

- 台風第10号に備え、木曽川水系内の3ダムにおいて事前放流を実施することにより、治水のための容量を確保しました。
- 14ダムにおいて、既に水位が低下していたことで事前放流の容量を確保していました。
- 下流河川の水位を下げるため、ダムに洪水の一部を貯める洪水調節を2ダムで実施しました。

■既に水位が低下していたダム(前ページより続き) 14ダム (2/2)

所在県	水系名	河川名	ダム名	区分
岐阜県	木曽川水系	馬瀬川	西村ダム	利水ダム
岐阜県	木曽川水系	飛騨川	高根第一ダム	利水ダム
岐阜県	木曽川水系	揖斐川	徳山ダム	治水等多目的ダム※
岐阜県	木曽川水系	揖斐川	横山ダム	治水等多目的ダム※
岐阜県	木曽川水系	富田川	岩村ダム	治水等多目的ダム※
岐阜県	木曽川水系	唐沢川	谷山農地防災ダム	利水ダム
岐阜県	木曽川水系	久々利川	小淵農地防災ダム	利水ダム
岐阜県	木曽川水系	岩手川	不破北部ダム	利水ダム

※ 治水等多目的ダム:直轄・水資源機構(特定施設)・補助ダム

注)本資料の数値は速報値であり、今後の精査等により変更となる場合があります。

■洪水調節を実施したダム 2ダム

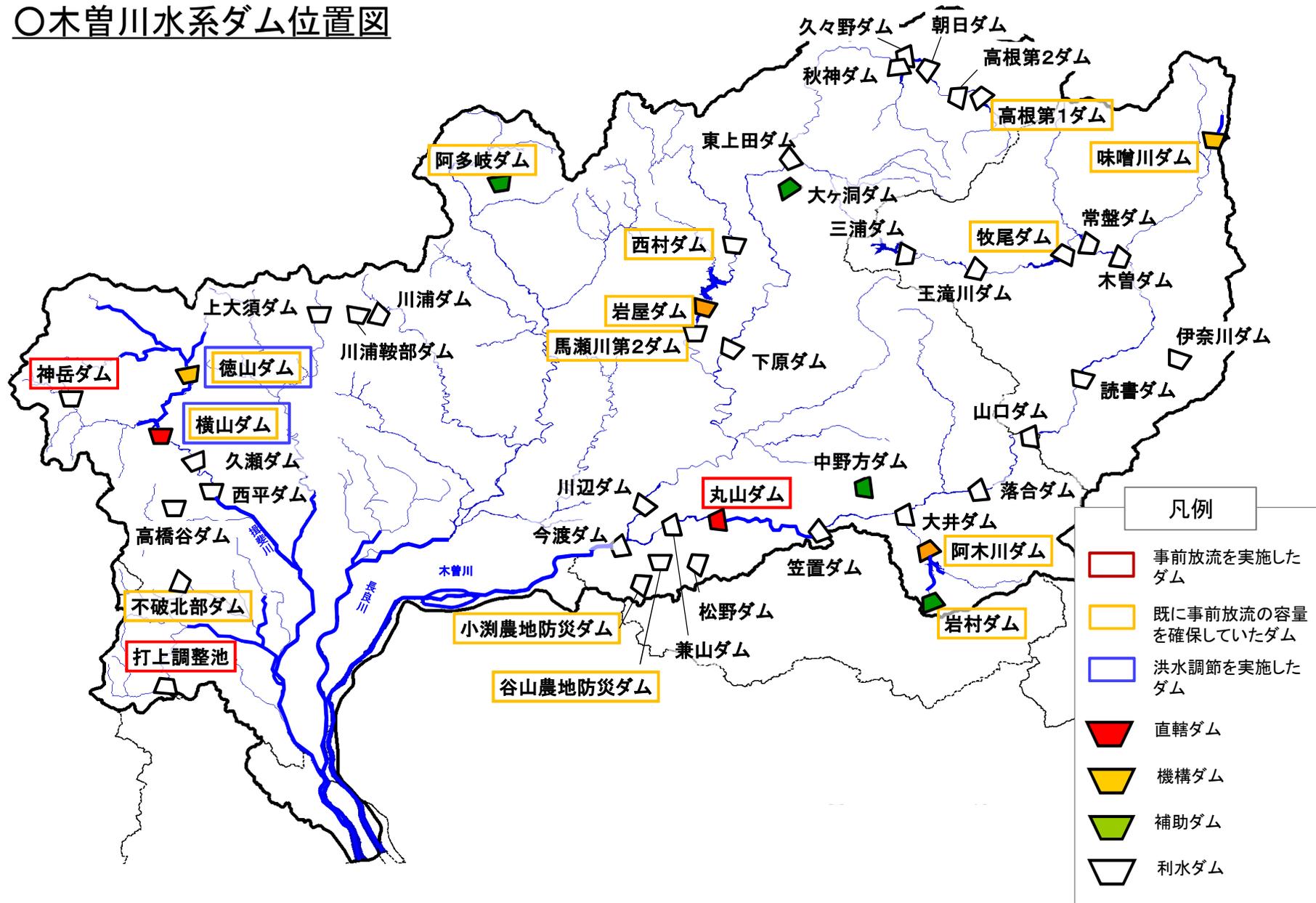
所在県	水系名	河川名	ダム名	区分
岐阜県	木曽川水系	揖斐川	横山ダム	治水等多目的ダム※
岐阜県	木曽川水系	揖斐川	徳山ダム	治水等多目的ダム※

※ 治水等多目的ダム:直轄・水資源機構(特定施設)・補助ダム

注)本資料の数値は速報値であり、今後の精査等により変更となる場合があります。20

木曾川水系におけるダムの対応

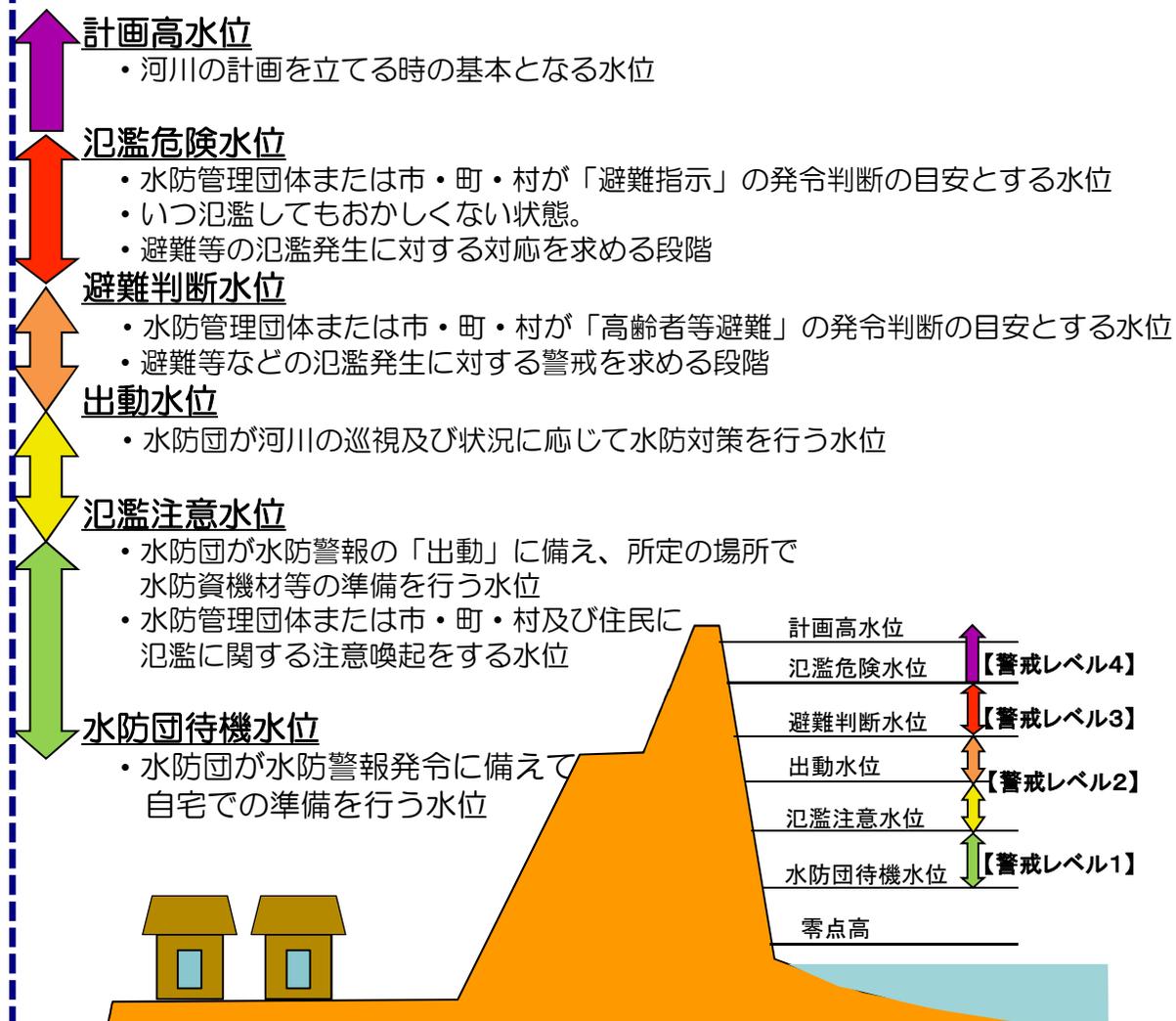
○木曾川水系ダム位置図



用語説明

参考

- 河川の水位は観測場所毎に決めた基準高さ[=零点（ゼロ点）]からの高さで表しています。
- 水位の高さによっていくつかの設定水位が定められており、その水位を超えた段階での対応が決められています。



○ 「河川水位観測所」の水位情報により洪水の危険度や避難判断の目安がわかります。

○国土交通省中部地方整備局

木曾川上流河川事務所 流域治水課

TEL (058) 251-1125

FAX (058) 251-1150

URL <https://www.cbr.mlit.go.jp/kisojyo/>

○国土交通省中部地方整備局

木曾川水系ダム統合管理事務所 管理課

TEL (058) 255-2562

FAX (058) 255-2563

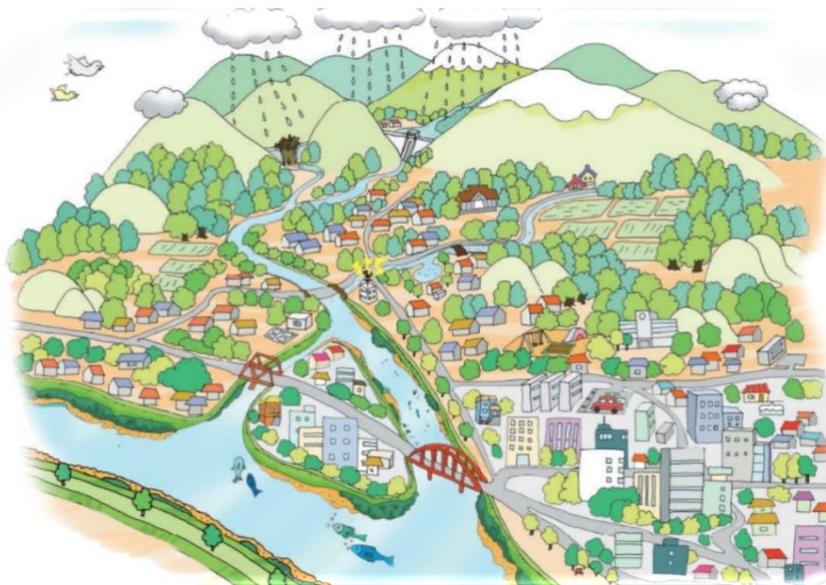
URL <https://www.cbr.mlit.go.jp/kisodamu/index.php>

岐阜県 河川課

令和6年8月台風第10号災害検証結果（概要）

総括

- 令和6年台風第10号により、岐阜県西濃地域の大垣市、養老町、垂井町、神戸町、池田町を中心に豪雨となり、河川からの氾濫や内水氾濫によって床上・床下浸水被害等が発生した。
- こうした中であっても、検証を行った流域の市町では、浸水しやすい地域の農地や輪中堤の保全などが行われ、台風第10号による水害においても効果を発揮し、流域治水に焦点が当たる前からのこのような本流域の取組みが、改めて評価すべきものであることが分かった。
- 一方で、河川改修の計画規模を上回る降雨となり、改修途上の河川や排水路などが一定の効果を発揮したものの、大規模な浸水が発生したことを受け、現在進めている河川改修を加速するとともに、新たな貯留施設や河川監視カメラの整備などを検討する必要がある。また、河川管理施設等の機能を維持するための定期的な点検・更新や、避難情報の適切な発令につながる情報提供体制の徹底など、平常時からの取組みを継続する必要がある。
- 今回、近年稀に見る記録的な豪雨となったが、今後も気候変動により、同様の豪雨が頻発化することが懸念されるため、「流域治水」としてあらゆる関係者が取組みを継続していくとともに、更に拡充していく必要がある。



主な論点（課題と対応・方向性）

今回の浸水被害は、昼間に発生したため、現場での目視、監視カメラによる視認、ドローンによる空撮等の各種情報が充実したことも手伝い、そのメカニズムを時系列ごとに整理することができた。これに加え、避けるべき被害を整理した上で、これまでに行った各種取組みの評価を行うことにより、不足点や改善点などを検討し、以下の5つの項目ごとに、課題と対応・方向性の形でとりまとめた。

■中小河川における洪水対策の強化

課題

- 【杭瀬川】改修の完了には時間が必要。目指す改修が完了した場合でも、浸水被害が発生(超過洪水)。
- 【水門川】河道の拡幅や河床の掘削のみで洪水を安全に流下させるには多くの費用と時間が必要。
- 【相川・大谷川】杭瀬川の背水による影響で、洗堰からの越水が発生するおそれ。
- 【泥川】逆流防止水門閉鎖時に、内水位が上昇。
- 【平野井川】排水機場の排水能力を超える規模の洪水が発生した場合に、溢水氾濫が生じ、道路等が冠水するおそれ。

対応・方向性

- 【杭瀬川】河川改修の加速化を図るとともに、洪水の流量を低減する**貯留施設整備**を検討。
- 【水門川】J R上流区間の拡幅整備とともに、水門川から杭瀬川への**放水路**を整備。
- 【相川・大谷川】洗堰解消に向け、上流域のJ R橋梁改築も含めた河川改修を実施。
- 【泥川】泥川水門閉鎖時の内水排除を目的とした**排水機場**を整備するための検討・調整を実施。
- 【平野井川】**監視カメラ**の整備を検討。浸水被害の軽減を図る輪中堤などの伝統的防災施設の保全を継続。

■施設（樋門・樋管、陸閘、排水機場等）の適切な維持管理

課題

- 施設の点検及び整備・更新並びに操作訓練などを継続し、施設に求められる機能の確保が必要。
- 点検時に異常がなくとも、超過洪水時には、不測の施設破損が発生するおそれ。

対応・方向性

- 施設の老朽化に伴う維持管理費の増大や人員不足に備え、維持管理の更なる効率化を図り、**持続可能な管理体制**を構築。
- 不測の施設破損を念頭に、有効な**応急対策工法**の検討及び対策に必要な**復旧資材の備蓄**。また、出水時の効率的、**効果的な巡視方法**を検討。

主な論点（課題と対応・方向性）

■きめ細かな情報提供体制の継続

課題

- 慣れや危機感の低下などにより、河川管理者から自治体へのホットライン等の伝達が形骸化するおそれ。

対応・方向性

- 確実な情報伝達・避難につながるよう、出水期前に毎年行う訓練の継続実施。

■内水被害軽減に向けた排水路・排水施設、貯留施設の計画的な整備

課題

- 施設の能力には限界があり、防ぎきれない洪水は必ず発生するため、施設で負担する量の再検討が必要。
- 流域治水の要の一つである雨水貯留施設の新規設置の伸び悩み。

対応・方向性

- 流域治水の考え方に沿った内水計画の見直し。河川改修と連動して市町の管理する排水路を計画的に整備。
- 民間施設への雨水貯留施設の整備の働きかけを継続。公共施設への雨水貯留施設の整備を積極的に検討。「田んぼダム」の普及に向けた導入マニュアルの作成。

■農地保全の継続に向けた浸水想定区域図の活用

課題

- 現時点では農地が概ね保全されているものの、今後、無秩序な開発が進むおそれ。

対応・方向性

- 浸水想定区域図などの災害リスク情報の適切な提供や、都市計画マスタープランでの都市防災等の方針の継続により、引き続き、浸水の可能性がある土地における農地を保全し、開発を抑制。